

土地の記憶ともいうべき建造物。
それらは近代和風や、
西欧の近代的手法により構築され
地域の近代化の歩みを現代に伝える
貴重な文化遺産です。

静岡県の 近代化 遺産



尊徳の教え伝える

大日本報徳社建造物群（掛川市）

幕末から明治にかけ、二宮尊徳の唱えた報徳思想は、小田原生まれ全国に広がっていった。尊徳から直接教えを受けた、掛川出身の岡田佐平治や、その息子・良一郎らの難村復興運動が盛んだった掛川は、明治時代に全国の報徳運動の中心となり、「大日本報徳社」が生まれた。掛川城横の建物群が、足跡を今に伝える。

中心は静岡県指定文化財の大講堂。1903(明治36)年建築の木造2階建てで、入り母屋造り、かわらぶきなど伝統的和風様式だが、窓や柱に洋風建築が取り入れられている。内部は81畳の大広間で正面に演壇、2階には、つり構造の観覧席がある。築後100年で老朽化が激しいため、2007年末完了予定で改築・復元工事が進行中。将来は国の文化財指定を目指す。

淡山翁記念報徳図書館は、第2代社長・良一郎(淡山)の業績を記念して1927年に建設。県内で現存する数少ない昭和初期の鉄筋コンクリート造り。

迎徳記念館、迎徳学寮は、ともに有栖川宮邸の一部で、1938年に東京・霞ヶ関から移築された。勤労、分度(適度)、推譲(譲る)に象徴される二宮尊徳の報徳の教えが、混迷の現代また脚光を浴びている。



2005年1月 Vol.23

企画・発行 / 静岡県広報室 〒420-8601 静岡市追手町9-6

Tel.054-221-2233 Fax.054-254-4032

ホームページ <http://www.pref.shizuoka.jp/>

E-mail myshizuoka@pref.shizuoka.lg.jp

編集・制作 / 中日新聞社